

令和4年度（2022年度）事業者防災訓練 訓練課題対応資料

1. 原子力防災訓練で確認された課題のうち、重要と位置付けて取り組む問題点／課題について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因、対策を表-1に示す。

(カテゴリー分類)

- (1) ERC 対応訓練

2. 原子力防災訓練で確認された課題のうち、事業所内活動の力量向上のために取り組む問題点／課題について、下記のカテゴリーに分類し、それぞれに対する原因、対策を表-2に示す。

(カテゴリー分類)

- (1) ERC 対応訓練
- (2) 応急措置（拡大防止措置訓練）
- (3) 通報連絡訓練

表-1. 令和4年度（2022年度）原子力防災訓練で確認された課題

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策
ERC 対応訓練	情報提供	ERC 対応者は事象に対する重要情報を ERC プラント班へ適時適切に漏れなく報告する。	1	放射線推移の情報（トレンドグラフ、グリッドマップ等）、推移状況等を踏まえた戦略と実施状況の説明が足りなかった。	ERC 対応者（正）は各係からの重要情報（トレンドグラフ等）を ERC 対応補助者（A）を通して ERC 対応室へタイムリーに提供する予定であったが、ERC 対応補助者（A）を活用できていなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ERC 対応室で緊急対策本部のプロジェクトに投影されている情報（トレンドグラフ、グリッドマップ等）を常時確認できるようにし、ERC 対応補助者（A）へ重要情報の収集をタイムリーに指示する。 ※具体的内容については検討中である。 ERC 対応補助者（A）は緊急対策本部の各係長と連携し、タイムリーに重要情報を収集し ERC 対応室へ提供する。 この内容については、教育・訓練を通して周知・徹底する。
		認定会議には判断内容等の情報を整理し説明する。	2	15 条認定会議において収束見込や今後の対応を説明することができなかった。	ERC 対応マニュアルには 15 条認定会議に説明する内容はマニュアル化されているが、ERC 対応者の練度不足により説明に抜けがでた。	<ul style="list-style-type: none"> 15 条認定会議において説明する事項について、ERC 対応者へ周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。

表-2. 令和4年度（2022年度）原子力防災訓練で確認された課題 [事業所内活動の力量向上のための取組]

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策
ERC 対応訓練	情報共有	通信設定初度の対応は迅速に行う。	1	ERCプラント班との通信設定初度の通報事項の連絡を速やかにできるようにする。	定型様式を用いた運用をしていなかった。	・ERC対応者の初度対応に必要な内容を定型様式にまとめ、マニュアルに定めルール化する。これらの内容については、ERC対応者へ周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。
ERC 対応訓練	情報提供	書画装置を有効に活用する。	2	書画装置を有効に活用することができなかった。	書画を有効に活用する意識が不足していた。	・書画を有効に活用することをERC対応者の注意事項に追加する。これらの内容については、周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。
応急措置（拡大防止措置訓練）	現場対応訓練	現場作業者に放射線量測定終了エリアを分かりやすく明示する。	3	放射線量測定後にマーキングがされていないため、周辺にいる作業者が測定終了のエリアについて分からない。	測定後のマーキングをする運用ではなかった。	・測定終了後の箇所がわかるようにカラーコーン等を設置する。これらの内容については、周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。
		マスク着用時の情報伝達を相手側に伝わりやすくする。	4	全面マスクを着用した際に携帯電話を使用していたが、音声伝達が困難な状況であった。（大声で話しているが互いに聞き取れない状況が見られた）	携帯電話が音声を聴き取りやすいとのことから携帯電話の運用としていた。	・全面マスク着用時でも音声が伝わりやすいように改善を図る。 ※具体的内容については検討中である。

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策
応急措置（拡大防止措置訓練	現場対応訓練	汚染の可能性のある場所では道具類を適切に扱う。	5	汚染拡大防止の作業中に電離箱を周辺の芝生に置いて作業を行っていた。また、ダストサンプラによる採取を実施している際、採取用道具（予備の濾紙、はさみ、ポリ袋等）が採取場所近辺の机の上に置かれていた。	放管系の個別訓練では実際の発災と同様に活動することを個別訓練により教育している。しかし、担当者は汚染の可能性のある場所であることを意識せずに行動してしまった。	・放射線測定時の注意事項をマニュアルに定め、周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。
ERC 対応訓練	情報提供	分かりやすく説明するために、備え付け資料を活用し情報を提供する。	6	電話のみの情報提供を行う場合は備え付け資料をもっと活用すべき。	備え付け資料を十分に活用する意識が不足していた。	・電話のみの情報提供を行う場合は、ERCプラント班との情報提供に不足がないようにERC対応者マニュアルの注意事項に備え付け資料を有効に活用することを追加する。また、ERC対応室にその旨の掲示を行う。これらの内容については、周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。
		分かりやすく説明するために、図示することを意識する。	7	発災場所の状況について、もう少し書画装置で位置や発生状況を図示する方が理解しやすい。	発災場所の状況を分かりやすく説明する意識が不足していた。	・ERCプラント班へ分かりやすく説明ができるように、マニュアルに定めルール化する。これらの内容については、ERC対応者へ周知・徹底するとともに教育・訓練を行うことで力量の向上を図る。

分類	項目	あるべき姿	No.	問題点／課題	原因	対策
通報連絡訓練	通報文書作成	10条通報の記載には、施設の状況等、重要情報は抜けなく記載する。	8	10条事象通報にはモニタリング結果が記載されているものの、何か起こっているのか施設状況が記載されていない。	<ul style="list-style-type: none"> ・想定される原因として、原料貯蔵室VI内で火災爆発による濃縮ウラン粉末の屋外への漏えいを記載しているが、施設・設備の状態の項に記載していなかった。 ・10条事象通報は、各建屋の排気筒モニタの指示値、モニタリングポストの指示値を記載する様式であったため、施設状況を詳細に記載することをしなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10条通報の様式に設定されている項目を見直し、施設状況等を記載できるようにする。